

前進する図書館サービス

図書館長 野上修市

2001年度は、新しくオープンした中央図書館の運営を軌道に乗せ、さらに、図書館全体としては、利用者サービスの拡大を図ることに大きな力を注いだ1年であった。幸いにも新図書館は利用者に好評であり、リバティタワーエントランスホールから直接入館できるというロケーションの良さもあって、前年度比の66%増、延べ85万人の入館者を迎えることができた。また、中央図書館・生田図書館では、休日開館をスタートさせ、3図書館すべてにおいて、ネットワーク接続ができる情報コンセント・情報機器を備えたマルチメディアエリアの設置も実現を見た。したがって、全般的にいうと、利用者サービスの面で、大きく前進した年であったと評価することができよう。

以下、2001年度図書館活動の主な内容を列挙しておこう。

1. 利用者サービスの向上（中央・生田図書館の休日開館実施、開館時間の延長）
2. 電子図書館機能の充実（商用データベースの活用、マルチメディアエリアでの情報機器の提供・貸与）
3. 蔵書の充実・個性化（専門図書、学習用図書、特別資料）
4. 図書館利用教育の実施（各種図書館案内の実施、学部間共通総合講座「図書館活用法」の実施、利用促進のための各種PR活動）
5. 図書館職員の質的向上（各種研修活動の充実）
6. 図書館活動の充実（中央図書館ギャラリーにおける「蘆田文庫古地図展」、「花の都江戸の賑わい展」、和泉図書館における講演会「著者と語る」の実施）
7. 海外図書館への協力・支援（ラオス国立大学経済経営学部図書館支援、韓国翰林大学校日本学研究所図書館支援）
8. 千代田区立図書館との相互協力に関する覚書の締結
9. 山手線沿線私立大学図書館コンソーシアムに関わる活動
10. 図書整理の改善と迅速化（図書の発注・整理・装備のアウトソーシング、旧分類資料の遡及入力）

以上図書館諸活動の詳細な内容については、本報告書の関係箇所をお読みいただきたい。

この年次報告書の発刊は、2001年度における本学図書館の諸活動の記録を広く公表することにより、関係各位の評価と意見をいただき、今後の図書館活動のあり方にそれらを生かすという目的を持っている。図書館活動に対する一層のご理解とご協力を賜れば、幸甚に存じる次第である。